



「かながわ人づくりコラボ2024」を振り返って

かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会

幹事長総括

- 今年度の「かながわ人づくりコラボ2024」は、昨年度に引き続き、実地開催の状況をオンラインでライブ配信するという、ハイブリッド形式での開催としました。また後日のアーカイブ配信の実施に加え、オープニングアトラクション、実践紹介動画、教育論議の動画について、教育委員会ホームページ上に期間を設けて掲載します。
- 当日は「知っていますか？先生の見えない魅力と苦悩」をテーマとして、教員が業務にあたる姿を動画で紹介し、それを基に教育論議を行いました。
- 開会に先立ち、県内の学校による部活動等の成果発表を行いました。今年度は湘南高等学校合唱部が「いのちの歌」と「狩俣ぬくいちゃ」の二曲を披露しました。無伴奏でありながら、手足を使った迫力あるボディパーカッションを用いたり、曲間では、それぞれの歌についての説明を行う等、工夫を凝らして観客を楽しませていました。
- 実践紹介では、県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生が、実際に勤務する姿や、それに関連するインタビューをまとめ、多忙な勤務実態や、それぞれの校種の魅力について示す動画を上映しました。
- 教育論議では、「生徒と教師の対話から考える、教職の魅力」をテーマに、かながわ人づくり推進NW幹事長 高木 まさき をコーディネーターとして、神奈川県教育委員である笠原 陽子氏、県立希望ヶ丘高等学校より 張江 雄司氏、綾瀬市立綾北中学校より 鍛代 浩美氏、横浜国立大学大学院より 平塚 斐女さん(大学院生)、光陵高等学校より 後藤 蒼一郎さん(高校生)の5名を交え、登壇者6名にご登壇頂きました。教員を目指す学生2名からの質問に、現役教員や有識者が答える形で話し合いを進めました。
- 実践紹介と教育論議での意見交換を通じて、学校では、子どもの成長を目の前で直接実感できることに喜びを感じられ、子どもの成長はもちろんのこと、教師自身も成長できる場でもあること。大変なことも多いが、子どもの成長のためであれば苦勞も厭わないという思いで先生方は勤務しているということを再確認しました。現在の教育現場における課題に触れながら、教職の魅力について等、参加者それぞれが考えるきっかけになったと思います。
- 私たちネットワーク参加団体は、各団体の取組みを尊重しつつ、毎年開催している「かながわ人づくりコラボ」での教育論議を通して、教育ビジョンの「心ふれあう しなやかな 人づくり」をめざして、『思いやる力』『たくましく生きる力』『社会とかかわる力』の育成を、それぞれの立場と役割を自覚しながら取り組んでいきます。今後とも参加団体の皆様には、より一層のご尽力をいただきますよう、引き続きよろしく申し上げます。

※詳細な結果概要は、県教育委員会ホームページか、かながわ人づくり推進ネットワークホームページに掲載している「『かながわ人づくりコラボ2024』の実施結果の概要」をご覧ください。

【コラボ2024の開催概要】

- 日時・場所 令和6年10月12日(土) 14:00~16:00 県立総合教育センター 講堂
【参加者(会場)194名(オンライン)251名(アーカイブ)563名(計)1,008名】
- テーマ 「知っていますか？先生の見えない魅力と苦悩」
- プログラム (1) 実践紹介 県内の小・中・高等学校・特別支援学校の多忙な勤務状況や、その魅力を示す動画の上映
(2) 教育論議 [テーマ：生徒と教師の対話から考える、教職の魅力]

◎コーディネーター

高木 まさき 氏 (かながわ人づくり推進N幹事長)

○パネリスト

笠原 陽子 氏 (神奈川県教育委員会 委員)

張江 雄司 氏 (県立希望ヶ丘高等学校 教諭)

鍛代 浩美 氏 (綾瀬市立綾北中学校 教諭)

平塚 斐女 さん (横浜国立大学大学院 2年次)

後藤 蒼一郎 さん (県立光陵高等学校 2年生)

《教育論議での主な意見》

- ・ 教職関連の調査結果から、教職を選ぶ人は高校までに教員になると決めており、それまでにモデルとなる教員と出会っている場合が多い。先生が笑顔で熱意をもって生徒と接することは、非常に大事なことである。
- ・ 教職志望の若者は「学校で指導するため」に学ぶのではなく、教科について、より深く学ぶべきだ。生徒に対して、教科の魅力を伝える意識をもち、アンテナを高くして勉強するとよいと感じている。
- ・ 『良い教師を全ての教室へ』という本に「教えることは複雑だ。」という一節がある。(教師は)専門的な教科に関する知識を自分のものにして、様々なことを関連させて子どもたちに接していく。その為には、自分の目で本物を見ていくこと、自分の心で感じる場面を積極的に持つこと、自分で理解し、物事を理性で判断できるようにすることが大事である。
- ・ 教師になった時に、もっと勉強しておけばよかったと思ったことを思い出した。幅広い考え方を学ぶとするなら、大学時代に多く友人をもつこと、本を沢山読むこと、そういった事が大事だろう。
- ・ 高校は退勤時間が著しく遅くはないが、ほとんどの教員が、授業準備やクラス運営などに対して、十分に時間を割けていない。生徒に対して提供できる価値が少なくなっていると言えるので、働き方改革は今後も続けていくべきだ。
- ・ 教員はもっと分業すべきである。一人で様々なことをするよりも、色々な人と役割分担しながら進めた方が早く終わるし質も上がる。学校でも更に分業を進めることで授業の労働時間も短くしたり、授業の質を高めたりできるのではないか。
- ・ 人手不足の解消は大事だが、お互いに顔と名前、そして相手がどんな人間かを分かって接することが重要だと考えているので、人員補充する際に誰でもいいというわけではない。人手不足の影響が1番出るのが、生徒と関わることでと感じている。教員が余裕を持ち、生徒と十分なコミュニケーションをとることができる環境を整えることが働き方改革につながると考えている。
- ・ スキルアップのための取組の主な目的は授業力の向上である。様々なことを学んでいるが、大学院に入学し一度現場を離れることで、新たな視点で見直すことができている。知識だけでなく、実践とともに身につけたいと考えてスキルアップに励んでいる。
- ・ 辛い経験について、私はバスケットボール経験者だが、10年以上競技から離れていたもので、部活動指導の際に、どう指導すべきかわからず、生徒も不満を持ち悪循環に陥った時があった。
- ・ 良い授業を目指す為に、どういったことをすべきか考えている。ICT機器を用いる場合もあれば、板書を生徒がひたすらメモするような授業もある。生徒はより良い授業、受けて楽しめる授業を求めている。
- ・ 学校は、学校教育目標をたてて、職員が一つになって取り組んでいくことが大事であり、その中心は、授業である。授業を通して子どもたちが充実するために、管理職も含めたミドルリーダー、総括の方々がいらっしゃる。そういった方々が、意識的に生徒たちの不安を取り除くようにスキルアップをしながら、生徒に思いを伝えていくことが大事である。